

(様式2)

平成 30

年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590101471		
法人名	株式会社 鶴寿会		
事業所名	グループホーム鶴の家(まいづる)		
所在地	新潟市西区小針8丁目6番18号		
自己評価作成日	平成30年8月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成30年9月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

(1) 地域密着型のグループホームとしてまた住宅地の中にある施設として、地域の行事等に参加する。
(2) 地域住民からのボランティアを積極的に受け入れる。
(3) 建物は木造平屋建てで、天井が高く入所者様に圧迫感を与えないような作りになっております。
(4) 建物内全般は木の香り薫高原のロジック風に作られており、またバリアフリー等については万全を期しております。
(5) 入浴については入居者の皆さんの将来のADLの低下を見越して特殊浴槽の導入を図って入居者の皆さんが安心安全に入浴ができる体制が整えられています。
(6) ホールには大型の空気清浄機を導入し、高齢者の健康面を十分に配慮して施設づくりを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅街に立地しており、木造平屋建ての建物で、太い梁や木のベンチ、和紙を貼った照明や畳のスペースなど、清潔で落ち着いた雰囲気のある家庭的な環境となっている。
母体法人はデイサービスや居宅介護支援事業所など複数の事業所を運営しており、全体で行事を行ったり、様々な委員会を設けたり、定期的にそれぞれの管理者が出席する運営会議を行ったりと、組織全体で協力し支え合う体制ができています。
開設して2年が過ぎたばかりであるが、地域の自治会に加入して地域の一員として防災訓練や観桜会などの地域行事に参加したり、運営推進会議には自治会の正副会長や民生委員に参加してもらい様々な意見をもらいながら地域との交流を深める努力を行っている。
日々のケアについては、食事の準備や後片付け、居室の清掃、趣味を活かした活動等、利用者の力を活かしてできることは行ってもらうなど、自主性を尊重し、家族の協力を得ながら一人ひとりに寄り添った支援が行われている。「利用者」と「家族の喜びは職員と法人の喜び」であると捉えて、その人らしい暮らしを支えられるよう実践している。
管理者は職員とのコミュニケーションを大切にし、各種委員会や内部研修により利用者本位の尊厳を大切にしたケアの実践を目指して取り組みを進めている。今後も地域に根ざした開かれた事業所づくりが進められていくことが期待される。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設し2年が経過しました。グループホームの7項目の運営方針に基づいて運営して参りました。特にこの施設が地域密着型のグループホームとして開設されたことに重さを置いて運営しています。	事業所開設時に代表者と管理者が中心になって運営理念を作成した。事業所が地域の拠点となって「一人一人の良い思い出として記憶に残るサービスの提供」を目指す事業所理念を法人理念と共に事業所の廊下やホールに掲示し、職員証の裏面にも記載していつでも確認できるようにしている。	事業所の理念の周知は職員個々にゆだねており、振り返る機会は少なく、職員への周知・浸透不足は管理者も課題と認識している。理念は日々のケアの根本であることから、職員への理解・浸透を図ると共にケアを振り返る機会を持つことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流の一環としては町内の観桜会に入居者様も参加させて頂き、又町内の防災訓練にも入居者様と共に参加させて頂いております。今後は町内会の日帰り旅行などにも参加できるように検討しているところです。	町内会に加入して回覧板を回したり、散歩や買い物の際に地域の方々と挨拶を交わしたり、防災訓練や観桜会など地域の行事にも参加して交流している。法人の感謝祭や事業所の行事であるそば打ちには地域の方々を招待している。昨年は保育園児の訪問があり、今後もさらに地域との交流に取り組んでいく予定である。	開設して2年が経過したばかりであるが、地域との交流も進んでいる。さらに事業所からの発信を望む声もあり、今後、広報紙の発行や介護教室の開催、ボランティアの受け入れ、小学校、幼稚園との交流など、様々な活動を検討しており、今後の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設としてはグループホームの施設を活かし、認知症を勉強する講座や介護福祉士が在籍しているので、認知症の介護や介助の行い方など講習会などが出来ればと考えているところです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は順調に行っています。現状報告、施設としての様々な問題の取り組み状況などお話しさせて頂いています。特に町内会の役員の方達とは施設への要望に等については開催の度にお聴きしています。	参加メンバーは利用者・家族の代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員で、隔月で開催して主に事業所の状況報告を行っている。毎回、特にテーマは決めていないが、メンバーからは「介護教室を行って欲しい」「事業所からもっと地域に情報発信して欲しい」など活発な意見があり、今後取り組んでいきたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政当局とは日頃から連絡を密にしており、問題点が生じればお話にも乗って頂いております。現在の所さしたるさしたる問題点もない状況ですが、今後更に密なる協力関係を築いて参りたいと考えております。	市の担当課とは書類の提出や様々な情報交換などで関わりを持っている。運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席しており、情報共有や意見交換を行っている。市や地域包括支援センター主催の研修会に参加して顔の見える関係作りに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者が外出を希望するときは職員が付き添い希望に沿うようにしております。玄関の施錠は原則しないが、他からの侵入防止のためやむを得ず施錠することもあります。身体拘束研修も年4回行っています。	身体拘束に関するマニュアルを整備し、委員会も設置している。職員は定期的に研修に参加して理解を深めるとともに、一人ひとりの利用者の状況を十分把握し考慮しながら身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。センサーマットや赤外線センサーの使用については家族とリスクについて話し合いを重ね、抑圧感のない暮らしを送れるように検討や振り返りを行っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の徹底については日頃から虐待等について各会議などで話し合っています。会社全体の委員会に出席することにより虐待防止関連法等を学ぶ機会を設けております。当グループホームでも委員会を行っています。	虐待に関するマニュアルを整備しており、定期的に内部研修を行って虐待のない事業所作りに取り組んでいる。年2回管理者との面談時にはストレスチェックを行ったり、要望書を書いてもらうなどして職員のストレス軽減にも努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解と活用については管理者や職員は入居者に必要性がある場合には十分にお話をお聴きして対処しております。今のところは成年後見等のお話等はございませんが、あれば関係諸機関と連携して支援できるよう努力して参ります。当グループホームでも委員会を行っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明には計画作成が担当し十分な時間をご説明することにより利用者様やご家族様の不安や疑問にお応えしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する利用者家族等の意見の反映についてですが、各ユニットの居室担当を者を通じてご意見等伺い、ユニット会議などの席で職員で検討しております。ご意見いただいた内容については対策を立てご意見に沿うように検討して行きます。	普段から家族が意見を出しやすい雰囲気作りに努めており、面会時や電話、運営推進会議など様々な機会を通じて意見を聞いている。出された意見、要望は申し送りノートに記載して職員間で共有し、必要に応じてユニット会議で検討して運営に活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見の反映、各ユニットの会議に出席し意見や提案を聞いたり、個別の職員面談を行い意見を聞き反映させるよう行っています。	毎月1回行われるユニット会議には管理者が出席して職員の意見や提案を聞くようにしている。管理者は年1回職員との面談を行うほか、日頃から職員とコミュニケーションを図るよう努めている。月2回、法人内の管理者が集まって開かれる運営会議で職員の意見が代表者に伝えられる仕組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当社の5つの理念に基づき職員が当社に働いて幸福を感じられる会社を目指して職場環境や労働環境の改善に努めております。タイムカードの設置や特別休暇制度(誕生日休暇・永年休暇)等を設けています。また給与待遇面でも子供手当(1子～3子迄)を支給しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	弊社は11の委員会を設けており、毎月各委員会に各事業所の職員が参加し研修を積んできております。これらにグループホームの職員も参加し、発表する機会を得ています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各事業所の管理者等は他の事業所とのネットワークの中で交流に努めており。情報交換などを行っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み前の見学、問い合わせの際の相談には時間をかけて対応しています。申し込み後の事前面談では本人、家族の状況や思いを聞き取り、環境が変わっても、安心して暮らせる環境づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がこれまで介護で苦労したこと、工夫したことに敬意を払い、介護を通しての家族の思いを受け止め、ともに支援していく関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの継続性を目的とし、入居前のケアプランの提供をお願いしています。さらに調査時のアセスメントを通して、環境が変わっても安心して暮らせるように支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は個々の能力に合った活動を働きかけ、入居者同士で家事を分担したり、共同作業では、それぞれが出来る事して認め合い、励まし合う様子が見られます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の生活の様子を写真と共に郵送しています。良いことだけでなく、心配なことも情報を共有し、家族の目線からの意見を聞かせて頂くこともあります。	毎月、担当職員が本人の生活の様子や健康状況などを書いた手紙に写真を添えて郵送するほか、面会時や様々な機会をとらえて家族と情報の共有を図っている。協力医療機関以外の受診の付き添いや外出、外泊、足りなくなった日用品の補充などは家族にお願いし、本人と家族とが疎遠にならないように努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の方々が気軽に来て頂ける雰囲気作りを努めています。週末や受診時の外出、外食を楽しんだり、帰宅時にはご近所の顔なじみの方のお茶のみ、法事への出席、お盆の墓参り等の、ご家族との大切な時間を持たれています。	入居時の聞き取りや利用者との普段の会話の中などから馴染みの人や場所の情報を得ている。これまでの関係が途切れないよう、友人、親戚の来訪を歓迎し、家族の協力を得て美容院など馴染みの場所への外出を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者間の人間関係を把握し、生活の中で生まれる喜怒哀楽の自由な感情の表現を慌てずに受け止めるようにしています。入居者同士で場を収めようとしたり、かばい合う気持ちがあり、職員は状況を見守りながら、必要に応じた援助を行います		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の為退所された方のお見舞いに伺い入居中のエピソードをお話したり、退所後の経過を聞かせて頂く中で退所後も支援する関係性があることをお伝えし、安心して頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話や打ち明け話から、本人の思いや希望をお聴きできることがあります。言葉にならない気持ちは表情や仕草からも感じ取るようにし、引継ぎや会議等で話し合い共有しています。	入居前の事前訪問時に要望を聞くほか、居宅のケアマネージャーやそれまで利用していたサービス事業所からも情報を得ている。また、日常の会話や本人の仕草、表情、家族の話から思いや意向の把握に努め、日々のケアに活かしている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	調査時の情報収集、家族や在宅サービスを利用していたところの様子を知る方からの情報提供をいただいています。また入居後の生活を通して知れた生活歴や好みなども記録に残し共有しています。	入居前の自宅訪問で本人、家族から話を聞くほか、居宅のケアマネージャーやそれまで利用していた事業所の担当者からも情報を得ている。情報は記録し、入居後に得られた情報も追記して日々のケアや趣味の活動に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を通し介護記録や連絡ノート申し送りにより現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意向をお聞きし、職員間での日々の話し合いやユニット会議等でカンファレンスを行い、介護計画を作成しています。	普段から本人が話している意向や家族の意見を確認しながら、担当職員と計画作成担当者が共同でアセスメントを行い、ユニット会議で話し合って他の職員の意見も取り入れて介護計画を作成している。利用者によっては訪問看護師からも意見聴取して介護計画に反映させている。3ヶ月に1回モニタリングを行い、6ヶ月ごと、または状態に変化があった時には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や、連絡ノート、申し送りなどを活用し。支援の成果の合った事や新たな問題点を話し合い対応策の見直しや継続を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて受診や買い物に付き添い、福祉用具の購入の支援も行います。介護保険外の理美容や訪問歯科診療が受けられ、希望に応じ、訪問マッサージなどの説明や利用に向けての援助を行います。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の方のご厚意で梅の木の実をもぎに行ったり、フェンス越しに菜園をみる親子と挨拶を交わしたり、何気ない会話から笑顔が生まれます。年2回のそば打ち実演会では地域住民の方をご招待し、又演奏会等にもご招待しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院と連携を図り、月に1回訪問診療のほか必要時には適切な医療が受けられるように支援しています。ご希望がある方は入居前からのかかりつけ医を継続し、必要に応じて受診時に介護情報提供書を持参して頂いています。	かかりつけ医は本人、家族の希望により決めているが、事業所の協力医療機関が毎月の訪問診療や緊急時の往診を行ってくれることもあり、かかりつけ医を変更する利用者も多い。受診は基本的に家族に付き添いをお願いしており、日頃の状態を文書にまとめて持参してもらうなど情報連携に努め、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいませんが週に1回訪問看護に来所いただき見て頂いています。その他の看護師がいない際は介護職員が健康状態をチェックし変化があれば協力病院や、訪看家族に連絡し受診をお願いしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師、看護師、相談員に入院前の健康状態、グループホームで対応できる範囲を説明し、病状の経過が把握できるよう努めています。今後の支援について、病院関係者、家族との情報交換や相談を行います。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護はお願いしていますが、訪問の日以外は医療行為が出来ないことを家族に説明の上、健康状態の維持に努めています。吸引の必要性、持病の悪化など、医療行為が必要な場合には、医療体制の整った医療施設や他施設への転居について家族と話し合い、必要な連絡調整を行います。	現在、事業所には看護師の配置はなく、訪問看護の利用や協力医の支援を得ている状況である。入居時には事業所で対応できること、できないことを説明し理解を得ている。状態が変化した場合にはその都度、家族と今後の対応について話し合い、方針を共有し、医療機関や他の事業所など適切なサービスにつなげられるよう支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故時はマニュアルに基づいて対応しています。又弊社の委員会においても研修を実施し実施力を身に付けています	急変や事故発生時のマニュアルを整備し、緊急時の対応に関するフローチャートを事務所の見やすい場所に掲示して職員がいつでも確認できるようにしている。研修は年1回計画的に実施しており、日頃から利用者一人ひとりの状況によるリスクについての対応を検討している。	マニュアルに基づいた研修は行われているが、机上の研修にとどまっている。事業所にはAEDも設置されていることから、その使用方法も含め、応急手当や初期対応の具体的な実践的な研修に取り組み、全職員の実践力の向上を図ることを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、ホームで防災訓練を行い、地域の避難訓練にも参加しています。災害時の避難場所は坂井輪小学校となっており地域の方からもホームに駆けつけて頂ける協力関係を築いています。	非常災害時のマニュアルを整備し、年2回、避難訓練を実施している。また、地域の自主防災会に加入しており、地域の防災訓練にも職員が参加するなど地域との協力体制の構築に取り組んでいる。	避難訓練が主に日中の火災を想定した訓練となっているため、今後は夜間想定や地震、水害など地域で想定される災害に対する訓練も実施することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は本人の行動の意味を考え、尊重する気持ちを大切にしています。転倒の危険性の認識がなく、多動の方への転倒予防の声掛けが、行動の制止に繋がっているのではないかと、対応にもどかしさを感じております。家族と相談の上、居室扉の開放をさせて頂いています。	事業所理念に「プライバシーの保護の徹底」を盛り込んでおり、接遇や認知症ケアについての内部研修を行い、利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーに配慮したケアの実践に努めている。希望があれば同性介助で対応し、女性利用者には特に身だしなみにも配慮するなど、化粧も自由にしてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	嗜好品の種類を揃えたり、入浴の順番や同性介助の希望を叶えるようにしています。日常会話の中からも本人の想いを聴けることもあります。言いつらいことや躊躇するような様子は表情や仕草から汲み取るように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のペース、リズムを把握し、その日の体調に合わせて、休息と活動のメリハリのある暮らしができるように心掛けています。どの利用者とも気持ちを通う瞬間を持ち、笑顔になれるように声掛けを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる方には、ご自分で洋服を選んでいただいています。職員と相談する方もいらっしゃいます。毎朝、整髪やお化粧をしておしゃれを楽しんでいる方や職員の声掛けに促され、髪をとかし、鏡を見てニッコリしてからリビングに向かう方等、それぞれです。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員との会話を交えながら、野菜の下ごしらえ、調理、味見、盛り付け等をしていただいています。食器洗いの当番表や声掛けにより、スムーズに家事参加が行われています。嫌いな食材があれば代替え品を用意し、菜園でとれた季節の野菜も味わって頂いています。	食材の買い出しや調理の下ごしらえ、下膳、食器洗いなどできる範囲で利用者に行なってもらっている。嫌いなメニューがあれば代替食を用意したり、利用者の状況に応じて刻み食やトロミ食などを提供している。食事は職員も一緒に摂っており、おやつ作りや外食行事も計画して利用者の楽しみになるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランスに留意し、清涼飲料水なども揃え水分を摂りやすくしています。食器や盛り付けを考え、見た目の満足も大切にしています。状態に合わせて、お粥、ミキサー食対応の方もいらっしゃいます。ご家族様、医師と相談の上、補助食品も提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促しています。自分で出来る方は居室で、介助が必要な方はリビングの洗面台で行い、自分で磨いた後の仕上げ磨きを介助しています。毎週1回、全員の口腔ケア用品の消毒を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄ペースに合わせて声掛けし、必要に応じた介助をしています。干渉されたくない方にはさりげない声掛けで排泄の確認をしたり、一日の中で気分の良いタイミングを見計らって下着の履き替えをして頂いています。	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、タイミングに合わせてトイレ誘導を行っている。オムツ、リハビリパンツ、尿取りパットなど排泄用品を適切に使用しながら、できるだけトイレで気持ち良く排泄できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、乳製品や野菜を多めに心掛け。毎日の体操を欠かさないようにしています。排泄記録簿に排泄回数、形状を記録し排便のペースを把握しています。必要に応じ、下剤のタイミングを図り、定期的な排便のお手伝いをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人のペースでゆっくりと入浴し、入浴剤の色や香りも喜ばれています。入りたくない時は、時間や日を変えてお勧めしています。羞恥心に配慮し、女性にはできる限り同性介助を行っています。	週2回以上の入浴を心がけ、それ以外にも夏はシャワー浴も行っている。拒否のある利用者には時間や日にちを変えるなど柔軟に対応している。入浴剤やゆず湯、しょうぶ湯などのかわり湯にしたり、同性介助にも対応するなど、職員と1対1の入浴が楽しいひと時になるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで起床し、朝食も一斉ではなく、ゆっくり召し上がっていただいています。朝陽を見て外気に触れ、昼食後は適宜休息し、夜は眠くなってから休んでいただくようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬と処方箋、お薬手帳を保管し、いつでも確認できるようにしています。普段と違う様子や認知症薬が処方されている方の副作用等に注意し、随時、かかりつけ医と健康状態を相談しています。必要に応じて処方の変更や追加について判断をいただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	針仕事や塗り絵、家事等得意な事を通して、役割を持ち、力を発揮できることで自信や張り合いを感じて頂けるように支援しています。飲み物も種類を揃え、歌や散歩やドライブ、家庭菜園の野菜の収穫などで気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年来より町内会の防災訓練や観桜会の大勢で参加させて頂きました。本年は秋にはブドウ狩り等に入居者の皆さんをお連れしたいと考えております。尚、昨年好評だった外でのお食事会も企画したいと考えております。家族の協力を得て、外食や買い物に出かけることも支援しています。	事業所の中だけで過ごすことがないように、日常的に散歩や買い物に出かけたり、ベランダに椅子を出して過ごすなどしている。家族の協力を得て外出や外食に出かけたり、イチゴ狩りやぶどう狩りなど季節を楽しむ行事も計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの預り金を金庫に保管し、管理しています。能力に応じ、買い物の代行をしたり、お化粧品や日用品がなくなるころ、近隣のお店に買いに行き、自分で手に取り、レジで支払いができるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある方は、電話を取り次ぎ話ができるようにしています。友人からの電話や葉書きが届くと、とても嬉しそうにされています。今後は残暑見舞いや年賀状などで、時節のご挨拶ができるように支援していきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にちなんだ壁面の飾りや入居者の作品を飾り、居心地の良い環境作りに努めています。畳のスペースはブラインドの調整により外の風景が見れたり、柔らかな光を取り込むことができ、エアコンで温度、湿度の管理も行っています。ベッドの位置にも気を配り、光源が目に入らないようにしています。	建物は木造平屋建てで、共用空間には6畳の畳スペースを設け、廊下には木のベンチを置き、太い梁や和紙を貼った照明器具など、木の温もりが感じられる造りとなっている。共用空間は毎日掃除し、手すりやトイレも消毒して清潔が保たれている。温度や湿度も適切に管理され、気になる臭いもない。季節を感じさせる装飾も気持ちを和ませてくれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの居室を訪問し合ったり、玄関前のベンチに座り、お話を楽しむ様子があります。にぎやかな環境で落ち着かない時には、畳のスペースで静かに目を閉じて過ごす方もいらっしゃいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやラジオを持ってこられ、一人で気兼ねなく過ごす時間があります。家族や友人との団らんができるよう、テーブルや椅子を用意される方もいらっしゃいます。アルバムや仏壇のある方もおり、家族との繋がりを感じられる環境があります。	家具などは本人の使い慣れたものを持ってきてもらうよう家族に伝えており、テレビやラジオ、アルバム、位牌、仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。居室の掃除はできる人には自分で行ってもらうが、難しい人は職員が行い、その人らしい居心地良い居室となるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室にはわかりやすく表示しています。廊下の手すりには赤いテープを貼って見やすく工夫し、トイレ、浴室にも手すりを設置しています。便座の高さと身長が合わない方、尿意があっても間に合わない方などはトイレとPTイレを併用し、必要に応じて介助を行っています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				